聖霊降臨節第３主日礼拝説教要旨（６月７日）

『神は愛』早川 真牧師

ヨハネの手紙一 4:13-21

教会はキリストの体だと言われます。それは、神がかつてキリストを通して世で働かれたように、今は聖霊を通して、教会を通して地上で働かれるからです。教会は建物ではありません。神に招かれ、イエス・キリストを信じた一人一人の集まりが教会です。教会の働きは、集められた一人一人の献身によって支えられています。それは人への献身ではありません。教会という組織への献身ではありません。神様への献身です。私達を滅びから救い出してくださった神の愛に対する応答が私達の献身です。

イエス・キリストによって示された神の私達に対する全き愛は、神への恐れを完全に締め出します。世の終わりにおける裁きにおいても、イエス・キリストにおいて示された神の愛を信じる者は恐れることがありません。そして次に、この恐れは人や社会に対する恐れも含んでいます。初期の教会は迫害にさらされていました。この手紙が書かれた当時、ローマ皇帝によるクリスチャンの迫害がありました。ペンテコステの時に弟子たちは部屋に閉じこもっていました。しかし聖霊を受けて、弟子たちは恐れが締め出され、閉じ籠っていた部屋から出て、大胆に福音を伝える者となりました。それは弟子たちの内に聖霊を通して神の全き愛が注がれたからでした。

この手紙が書かれた当時教会には、自分たちはすでに神によって救われているのだから、地上の生活はどうでもいいと考える人たちがいました。しかしここでヨハネは、神を愛することと隣人を愛することは表裏一体であることを示しています。神を愛し隣人を愛せよ。それは旧約の時代、天地が造られる前から神が私達に望んでおられることです。そのことを聖霊は今もささやく声で私たちに語り続けておられます。この静かな聖霊の声に従い、聖霊の力を頂いて、共に神の愛を証ししていきたいと思います。